

令和8年（2026年）1月14日外部評価実施
中央地域包括支援センター（中部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】 令和7年12月1日現在

圏域人口:56,578人
高齢者人口:13,997人
高齢化率:24.74%

【圏域の地域特性】

中部圏域は市のほぼ中心に位置し、公共交通や幹線道路沿いの利便性が高く、公共機関も集中しています。阪急豊中駅・岡町駅周辺には商業地域があり、スーパーも点在していますが、大型スーパーや衣料品店の閉店が続き、衣料品を求める高齢者の買い物には不便さがあります。駅周辺以外には、落ち着いた住宅街が広がっており、主に一戸建て住宅が広がる地域、一部マンションが混在する地域、主にマンションが広がる地域と分かれています。圏域全体で新旧の住宅がみられます。

どの校区も地域活動が活発に行われ、民生委員・児童委員、福祉委員など地域関係者と地域包括支援センターとのネットワークが構築されています。

【医療・介護支援】

圏域内には医院・クリニック、歯科医院、薬局などの医療機関は多数ありますが、鉄道駅周辺、商店街、幹線道路沿いと偏っており、泉丘校区や熊野田校区からは利用できる医療機関が限られています。検査や入院のできる医療機関は少なく、圏域内の高齢者のほとんどは圏域外の医療機関に入院することになります。介護サービス事業所は多数ありますが、そのほとんどが居宅サービスであり、特別養護老人ホーム、老人保健施設はそれぞれ1カ所ずつしかなく施設サービスは少ないです。有料老人ホームは複数あり、地域貢献にも意欲的に取り組んでいただいておりますが、部屋代や一時金が高額であるため入所できる方は限られています。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

複雑化、多様化する課題に対応すべく、3職種の専門性の向上を図り、関係機関と連携し多職種協働で支援を行い、地域包括ケアを推進します。

【特に力を入れて活動している点】

各校区に専任の担当者を配置し、民生委員・児童委員、福祉委員の会議に参加、また、各校区の福祉なんでも相談窓口に出向き、地域住民から気になるケースや、地域が抱える課題についての情報を得るように心掛けています。また、各校区で開催される「ふれあいサロン」や「敬老の集い」など地域活動の場に参加し、関係性がより深まるよう取り組んでいます。

また、人生の最期を自ら選択し、自分らしく生活できる人を増やすこと、そして終活のイメージをポジティブなものへと変え、自主的に取り組めるようにすることを目的に、エンディングノートを積極的に配布し、意識改革に取り組んでいます。

【活動の中での課題やその解決策】

課題：

高齢者虐待、生活困窮、判断力低下、こころの病など課題が複数絡み合い、解決に時間を要する相談支援が増えています。

解決策：

関係機関とのネットワークにおいて、状況の変化に迅速に対応しています。また、ケース検討会議を開催し、支援方針や役割分担の共有を行っています。解決に至らずとも、状況が悪化しないことを心掛けて支援にあたっています。

総評

【特徴的な取組内容】

① 高齢者の権利擁護に関する啓発活動、周知活動に力を入れており、住民の意識の向上などにつながっています。オリジナルの「終活すごろく」やエンディングノートを活用することで、住民が終活を含めた権利擁護を身近なものとして受けとめられるよう工夫をしています。

② 重層的支援を必要とするケースに対して、多機関・多職種が関われるようネットワークの構築を図っています。専門職や地域の情報共有・情報交換により、信頼関係の構築と、課題解決に向けた取組みを推進しています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

① 圏域内で推進されているオレンジャー【注1】の活用を通じて、認知症啓発の促進や、潜在的に支援が必要な方等への理解促進、地域全体の取組みのいっそうの広がりを期待します。

【注1】オレンジャー：近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の方や家族に対する早期の生活面での支援等を行うための「チームオレンジ」の担い手となる人。